廃棄予定の車いす 修理してアジアに贈る

修理し、タイへ発送する車いすを囲み「必要な人たちに役立てばうれしい」と話す自動車研究部の別府部長（中央）ら

「空飛ぶ車いす」活動再開

浮羽工業高自動車研究部 タイに３台

廃棄予定だった古い車いすを修理してアジア各国へ届ける「空飛ぶ車いす」活動に、長年取り組む浮羽工業高（久留米市田主丸町）の自動車研究部は13日、タイ・バンコクの病院に向けて車いす3台を発送した。同部が車いすを海外に贈るのは2017年以来7年ぶり。部員たちは「必要な人たちに役立てば」と願う。

「必要な人に役立ってほしい」

同部は車いすの修理とエコデンカー（バイク用小型バッテリーが動力の電動車で走行距離を競う）が活動の中心で、現在の部員は1、2年の計5人。「空飛ぶ車いす」は東京の公益財団法人の取りまとめで全国の工業高などが参加する活動で、同部は2000年代から車いす数百台を海外に贈った実績がある。

タイへ送る修理済みの車いすにステッカーを貼る。「安全に使えます」との意味も込めた、部員たちのプライドだ

同校は昨年7月の大雨災害で被災。同部も所有していた車いすとエコデンカー、工作機械などの多くが使用不能になったが、使える部品などを少しずつ集めて半年後に活動を再開した。

車いすは使われなくなったものの寄贈を受け、一台一台修理する。解体して部品を清掃、修理し、組み立て直す。壊れている部品は代替品を探したり、手作りしたりすることもある。国内外のメーカーごとに構造が違い、苦労も絶えないが、そのたびに知恵を絞る。使用する上で危険だと感じた場合は、構造そのものを変更することもある。

そうして完成し、新品同様となった車いすには、同校の校章と「自動車研究部」「空飛ぶ車いす」の文字が印刷されたステッカーを貼り付け、自信を持って次の持ち主の元へ送り出す。

部長で機械科2年の別府佳紀さん(16)は「両輪の回り方が違うと真っすぐ進まないので、その調整が難しい。樹脂製のノーパンクタイヤに交換しているので、長く使ってもらえるのでは」と笑顔で話した。

自動車研究部は、不要となった車いすを募っている。浮羽工業高＝0943（72）3111。

（後藤潔貴）

(C)西日本新聞社　無断転載、複製及び頒布を禁止します。